

令和7年度 結果の分析及び今後の改善

( 中間 最終 )

広南中学校区 校番 2

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	1 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)
***	<p>9年間を通して、確かな学力を育成する</p>	<p>子供の問いを生かした「考える授業づくり」を推進させた授業改善</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」を充実させるための授業改善</p>	<p>○算数科では、低学年はこれまでに習ったことと新しい学習との違いや、活用できることは何かを考える授業づくりを進めている。3年生以上は予習に取り組み、自ら理解できる点や課題を把握し、見直しをもって臨む姿が見られている。教師は児童の問いを共有し、考えを深める授業を展開できるよう進めているところである。一方で、宿題の予習では、教科書写しにとどまり、十分に思考が伴わない児童もあり、質の差が課題として残っている。</p> <p>○授業では、「はなしたいシート」を活用し、低学年では理由をつけて話すこと、中学年では比べながら考えること、高学年では相手の話を聞いて自分の考えを深めて伝えることを意識して取り組んでいる。また、今年度は「哲学対話」の手法を取り入れ、自分たちで問いを立て、輪になってテーマについて本音で話し合う活動を始めた。子どもたちが主体的に考え、対話を通して多様な価値観に触れることを目指している。一方で、全体での話し合いに苦手意識をもつ児童もあり、発言が一部の児童に偏る場面も見られる。また、道徳での取り組みは進んでいるものの、その学びが他教科に十分生かされていないという課題もある。</p> <p>○算数科では、単元テストに向けて活用問題を意識した授業を行い、応用力を育てることを目指している。問題文を図で表す工夫を取り入れることで、考えを整理しやすくなる手立てとしている。しかし、問われ方が変わると解けなくなる児童や、問題場面を頭の中でイメージして情報と結びつけることが難しい児童もいる。さらに、基本問題につまずくケースも見られ、活用力と基礎理解の両方に課題が残っている。</p>
**	<p>礼節と挑戦心を身に付け、健やかでたくましい心と体を育成する</p>	<p>基本的な生活習慣の定着</p> <p>体力の向上</p>	<p>○多くの児童が「5つの合言葉」を守って生活できている。毎月の生活目標として「挨拶」や「掃除」を位置づけることで肯定的に振り返りを行った児童が多かった。</p> <p>○6月23日～27日に生活リズムチェックを行った。タブレットによるチェックを行うことで、記入漏れや紛失がなく、回収率は95%であった。チェック項目は早ね、早起き、朝ごはん、メディアコントロールの4項目とした。4項目の中でも、「早ね」はどの学年においても55～70%の達成率であり、低学年であっても決められた時刻までに就寝できない児童が多いことが分かった。児童本人だけでなく、家庭への啓発や連携が必要である。</p> <p>○新体力テスト重点三種目を令和6年度の結果と比較すると、全国平均を上回った児童の割合が63～71%(平均67%)になった。特に、「50m走」の数値が63%と低く、多くの学年で全国平均を下回る児童が見られた。また、くれチャレンジマッチスタジアムへ全校児童が参加し、様々な種目で全学年で5位以内の目標を達成することができた。</p>
*	<p>自己有用感を高め、活力を生み出す学校をつくる</p>	<p>異学年交流や地域との交流活動を通じた資質・能力の育成</p> <p>児童の「自分の命は自分で守る」力の育成</p> <p>いじめや暴力行為等を許さない学校環境づくりを推進する。</p>	<p>○学園運動会を通して、1年生から9年生まで交流を深めることができた。また、遠足や縦割り掃除でも他学年と関わりをもって活動することで学校の一員としての自覚をもつことができていた。各学年、教科の学習や総合的な学習等で地域の方と関わったり指導していただいたりすることで、地域に対する児童の感謝の気持ちが高まっている。</p> <p>○中学校や地域と連携して防災教育や学級指導を行い、「自分の命は自分で守る」という意識を高めることができた。また、避難訓練の想定を従来と変えることで、より緊張感をもって取り組ませることができ、訓練の効果を高めることができた。</p> <p>○年度当初に引き渡し訓練を実施し、緊急時における保護者との対応や引き渡しの方法について共通理解を深めることができた。また、「土砂災害携帯マニュアル」の作成を通して、避難場所・避難経路・警戒レベル等について家庭でも確認することができた。</p> <p>○学園全体で行う「いじめ撲滅キャンペーン」やいじめ撲滅標語の作成を通して確実にいじめに対する意識が高まっている。</p>
業務改善	<p>働き方改革を推進する</p>	<p>長時間勤務の縮減に向けた業務改善</p>	<p>○成績処理期間はすいすい日課にする日を増やす等して、放課後の時間確保をしたので、この期間の負担を軽減することができた。夏季休業中の会議や研修をできるだけ集中的に行うことで、まとめて休暇を取得することができた。</p> <p>○月半ばに半月分、月初めに前月分の個々の状況を知らせることで、各自が時間外在校等時間についての状況を自覚してタイムマネジメントしている。</p>

## 施策(案)

学校名 呉市立広南小学校

### m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))

○今後は、宿題として出す予習を工夫し、考える力を使う内容にしていく。また、授業の中でも短い時間で予習活動を取り入れ、子どもの学びの様子を直接見る機会を増やしたい。さらに、学び合いや教え合いの場、練習や活用問題に取り組む時間をバランスよく確保し、子どもが自分の問いをみんなで共有しながら課題を解決していける授業づくりを進めていく。

○今後は、道徳で培った話し合いの力を他教科にも広げ、意見交流の場を意図的に設けていく。できている児童をしっかりと評価し、その姿を共有することで「こういうことなんだ」と学級全体で意識できるようにする。また、グループ活動を計画的に取り入れ、誰もが発言しやすい場を保障し、主体的・対話的で深い学びを推進する。

○今後は、算数の予習と授業内の活動を関連付け、児童が問題場面をイメージしながら情報を整理できるよう支援する。さらに、図や表を用いて思考を可視化し、児童が自分の考えを整理・表現できる工夫を行うことで、学習内容の定着と課題解決の向上を目指す。補充学習の時間(広南タイム)を活用し、単元内外の類似問題や活用問題に取り組む機会を増やすことで、基礎理解と応用力を同時に育てていく。

○常に意識して行動できているかについては個人差がある。また、否定的に捉えている児童は固定化されている。教職員間で共通理解を図り、統一した指導ができるようにする。

○学期に1回の生活リズムチェックは継続して行う。チェック前に全体指導や各担任からの意識づけを行っていききたい。保護者に対しては、基本的な生活習慣の定着の必要性をテトルや紙媒体で配布し、啓発に努めたい。また、児童自身がより良い生活を考えられるよう、保健美化委員会の活動も促していききたい。

○全学年の体育科の授業で、走の運動(低学年は遊び)を取り入れる。児童の走力(特に瞬発力・スピード)を上げるために、体幹を強くするトレーニングや正しいフォームを身に付けられる指導を行っていく。また、児童・体育委員会などと連携を図り、児童が楽しんで外遊びができる環境づくりを目指していく。

○学園朝会やロング昼休憩で異学年交流を設定し、交流の場を増やしていく。また、引き続き地域の方と連携し、各学年の実態に合わせて交流を図っていく。

○今後も様々な想定で実施し、「どのような状況もありうる」ということを、実感とともに学ばせ、いざというときに自分の命を守る方法を自分で選択できるようにしていきたい。

○引き続き、「土砂災害携帯マニュアル」の作成や引き渡し訓練を継続的に実施し、保護者との連携強化および児童・保護者双方の防災意識の向上に努めていく。

○2学期以降も継続的に「いじめ撲滅キャンペーン」を中心にいじめ撲滅のための取組を確実に進行。否定的に捉えている児童にその理由について話をする機会をもち、助言をしていく。

○行事や成績処理等に係る多忙期は、放課後の時間を確保し、退校時刻が遅くならないような取組を継続する。

○分掌やペア学年で声を掛け合い、協力できる体制をとる。

○ICTを効果的に活用する。

○月半ばに時間外等在校時間の残り時間を個別に提示する。